

下野市立南河内第二中学校

1 学校課題

研究主題

各種調査を生かした生徒の意欲を高める授業改善と評価の工夫
～伝え合い、認め合い、協同で課題の解決を図る言語活動の推進～

(1) 研究主題設定の理由

過去の研究から、言語活動は生徒の様々な能力を育むことに有効であること、また、その基盤として望ましい学習集団を育成することが大切であることが分かった。以上の点から、言語活動の研究を継続して行うため、伝え合い、認め合い、協同で課題の解決を図る言語活動の推進を副題とした。

本校の学校教育目標の1つに、「自ら考え学ぶ生徒（確かな学力）」がある。その具体目標として、「意欲的に取り組み主体的に学ぶ生徒」「自分の学習を振り返り、修正できる自己評価能力の身に付いた生徒」という2つの目標がある。また、下野市学習意欲調査では、より難しい問題を解こうとする「挑戦」の項目が例年低い数値となっているため、意欲を高めるための授業改善が必要である。思考力・判断力・表現力の見取りと評価については、研究を更に進めていく必要がある。

平成26年度より、とちぎっ子学習状況調査が開始された。以前より本校では、Q-Uテストを行ったり、市の学習意欲調査を実施してきたが、目標標準テストが十分に授業改善や評価の改善に生かされてきたとは言いがたい。そこで、それらをもとに生徒の実態をより具体的に捉え、どのようにして授業改善を行っていけばよいかを検証していく必要がある。

以上の考えのもと、研究主題を設定した。

2 研究計画

(1) 学校課題の研究によって目指す生徒像

自ら学習を振り返り、より高い目標に向かって、意欲的に学ぶ生徒

生徒がより高い学力を身に付けるには、自ら学習課題を見い出し、それを自ら解決していく能力が必要となる。また、意欲的に学んでいくためには、学習目標や評価を生徒自身が理解するとともに、自己を振り返り、正しく自己評価していく能力を身に付けなければならない。正しく自己評価できれば、より高い目標を見だし、意欲的に学ぶことができるであろうという仮説のもと、目指す生徒像を設定した。

(2) 研究の目的

学校課題に基づいて、主に以下の3点について、実践や検証をすることで、今後の指導に資することを目的とする。

- ①とちぎっ子学習状況調査を始め、様々な教育調査を活用した授業改善の方法
- ②思考力・判断力・表現力の指導と評価の方法
- ③生徒の意識調査

(3) 研究の方法及び計画

- ①4月 各教科部会で研究計画の作成・研究のポイントの絞り込み
- ②5月 生徒意識調査実施
- ③6月 とちぎっ子学習状況調査及び教研式標準学力検査の分析
- ④7月 とちぎっ子学習状況調査及び教研式標準学力検査の結果・保護者説明
- ⑤8月 各教科部会で評価計画及び指導計画について検討
- ⑥9月 全国学力状況調査の分析
- ⑦『言語活動』に関する研究授業・授業研究会の実施
- ⑧10月全国学力状況調査の結果について保護者説明
- ⑨1月生徒意識調査・教科部会で研究報告の作成
- ⑩前期・後期に「道徳を語る会」を実施

3 研究内容

(1) 各種調査を生かした授業改善としての具体例について

各教科および先生方の実践から、多くの知見を得ることができた。以下にその一部を紹介する。

- [国語]とちぎっ子学習状況調査において、「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」と答えた生徒の割合が18%と低かったことを受け、人前で自信をもって意見発表ができるよう事前に自分の考えをまとめた上で話し合い活動に参加させ、互いの考えをより一層深め、協同で課題解決を図れるよう展開を工夫。
- [社会]全国学習状況調査で、「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることができますか」という質問で、県や全国平均を下回っていたことを受け、様々な観点から社会問題を考える学習課題を設定し、話し合い活動を多く授業に取り入れ、それぞれの視点をシェアしながら課題を深化していける授業を工夫。
- [数学]各種調査結果の分析から、問題を把握する能力が低下しているということが判明した。そのため、話し合い活動を授業に取り入れ、他者の考えと比較検討し、互いの意見を共有及び深化させることができるよう授業を工夫。
- [理科]各種調査結果から、小学校と比べ、中学校では学習内容が難しくなるため、理科嫌いが進んでいるという結果が得られた。生徒の学習を支援し、理解を深めるため、授業の中で演示実験を取り入れ、視覚的にもうたえるよう授業を工夫。
- [音楽]学期末に授業に関するアンケートを実施し、その結果をもとに生徒の要望等を授業に取り入れた授業改善の工夫。
- [美術]とちぎっ子学習調査から、友だちの前で自分の考えや意見を発表することが苦手だと答えた生徒の割合が多かったことを受け、授業にグループ活動を取り入れ、友人との共同制作を通して、互いの意見を作品に反映させ、作品完成への喜びや自己肯定感を醸成できるよう授業を工夫。
- [保健体育]新体力テストや単元の事前アンケートから本校生徒の体力傾向や興味・関心等を分析し、単元ごとに補強運動を取り入れたたり、練習内容の変更を実施。
- [技術・家庭]とちぎっ子学習状況調査で「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」と答えた生徒の割合が低かったことから、基本的な技能の習得や問題解決的場面において、ペアやグループ学習を取り入れ、互いに協力したり、アドバイスしながら基礎・基本を学べるよう工夫。また、優れた作品やその工夫点を紹介し、創作意欲を高める工夫。
- [英語]各種調査結果から、コミュニケーションへの意欲が高い反面、人前で発表することに自信がもてずにいるという生徒の実態が分かった。生徒が自信をもって発表できるよう、言語の使用場面を考慮し、思考力・表現力を高める活動を工夫して授業に取り入れるとともに、CAN-DOリストを作成し、3年間を見据えた継続的指導を実践。

(2) 思考力・判断力・表現力を評価するための工夫について

- ・観点を明示し、自己評価、相互評価、全体評価を実施。【国語】
- ・毎授業時間に自己評価を実施。その結果を分析して表現の質を高める指導へつなげる。【社会】
- ・ワークシート等への記入状況や話し合い活動での様子を評価に加味。【理科】
- ・ワークシートや楽譜等への記入内容を評価に加味。【音楽】
- ・定期テストに文章題や記述式の問題を設定し、評価。【数学】
- ・パフォーマンステストの実施と定期テストでの発展的内容の出題【英語】
- ・自己評価を多く取り入れる。【技術・家庭、美術】
- ・制作途中の見取り。【家庭】
- ・学習カードの活用および毎時間の評価と教師間の評価の妥当性を確認。【保健体育】

4 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

各種調査から得られた結果から、各教科で生徒たちの意欲に即した学習課題を設定することにより、思考力、表現力が高まり、より多く、そして質の高い言語活動につながるということが分かった。また、グループ活動を授業に取り入れることにより、生徒同士が互いに励まし合い、教え合いながら安心して活動し、共に学ぶ楽しさや達成感を味わうことができるということが生徒の自己評価から判明した。生徒の興味・関心や実際の生活に関わる話題を授業に取り入れることで、生徒の学力および教師の授業力も向上するということを念頭に置いて、今後も言語活動を推進していきたい。

(2) 今後の課題

教師の授業コーディネート力が生徒の活動レベルを大きく左右するため、教師同士が情報を共有したり教科部会等を開いて学び合い、協同で教材研究の質を高めていくことが課題である。また、思考力・判断力・表現力を育成するには、やはり基礎・基本の定着が不可欠である。そのため、授業において基礎・基本の徹底を図ると共に、話し合いの技術と質の向上に努めなければならない。さらに、評価についても、各教科で教材に合わせた評価規準の検討・明確化を図り、互いに共通理解を図りながら指導に当たる必要があると思う。